

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

先立つて行かれる神を見上げて

ブロックアドバイザー 細田恒太郎



「主は、昼は、途上の彼らを導くため雲の柱の中に、また夜は、彼らを照らすため火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。」（出エジプト一三章21節）

「主は 雲を広げて仕切りの幕とし 夜には火を与えて照らされた。」（詩篇一〇五篇39節）

*

瞬間に半年が過ぎ、この年の後半の営みがスタートいたしました。この原稿を執筆している7月半ばには、全国的にコロナの感染が急拡大し、第7波の動向が注視されています。また世界的なインフレの加速、日常生活でも実感される物価の高騰、短い梅雨に続く記録的な猛暑、その後の梅雨に逆戻りの水害、終わりの見えないロシアのウクライナ侵攻、先週には元総理大臣が銃撃されて死亡するなど、この一月の間だけでも、次々と心を不安にさせる出来事がありました。そのような時だからこそ「心を騒がせてはなりません」（ヨハネ一四・1）と語られるイエス・キリストに心を開き、主からの平安で心を満たされ続けたいと願わされています。

イスラエルの民のカナンの地へと向かう旅路は、神の同行があったことをその大きな特徴としています。昼は雲の柱の中に、夜は火の柱の中に神の臨在が置かれていました。雲の柱、火の柱が民に先立つて進んで行き、彼らが行くべき道を示し、宿営する場所を決定しました。しかし、雲の柱、火の柱は、単に出発と停

止の時を決めたり、進むべき道を示していただけではありません。詩篇一〇五篇39節を見ると「主は 雲を広げて仕切りの幕とし」とあり、「夜には火を与えて照らされた」と記されています。仕切りの幕とは、太陽の日差しからイスラエルの民を守ったということです。火を与えて照らされたとは、彼らが歩む足元を照らされたということです。

荒野を旅する民にとって、日中の強烈な日差しから守られたことは、どれほどありがたかったことでしょう。荒野の夜に、街灯はありません。真っ暗な荒野を動けば、石に躓き、急な段差に足をとられて転倒することは容易に想像できます。しかし、民は火の柱によって、足元を照らされ、夜でも安全に進行することができたのです。

私たちがともにおられるイマヌエルの神は、愛と配慮に満ちたお方です。私たちは、イスラエルの民と同じように人生という険しい荒野を旅しています。不安や恐れは尽きることがありません。社会全体が抱えるような不安もあれば、健康や人間関係など個人的な不安もあります。この世界で生活する限り、そのような恐れがなくなることはないでしょう。それでも、私たちが不安を乗り越えて、希望をもってこの荒野を進むことができるのは、このような恵みと配慮に満ちた神がともにいてくださり、先頭に立ち、しんがりとなっていてくださることを知っているからです。この月も、先立つて行かれる神を見上げて行きましょう。

目次

- 先立つて行かれる神を見上げて……細田恒太郎……1
- 聖会の季節、神学研究委員会、厚生委員会から……2
- 若手牧師研修会、式文試用版、YSB 報告……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、eラーニング……4
- 献身の証し、神学院に行こう！、BTC夏フェスタ……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

聖会・キャンプの季節……

渴きをもって集まろう 心の刷新を願い求め

聖会は夏、また秋に開催 困難な状況乗り越える恵みを

国内宣教局長 大兼久芳規

イエスは「それを、ここに持つて来なさい」と言われた。

(マタイ一四章17、18節)

聖会やキャンプなどで救われ、信仰の確信が与えられ、またきよめの恵みに進み、日常の課題に解決が与えられることは幸いなことです。私たちの内なる解決は、実生活に必ず役に立ちます。

普段の生活では、目に見える課題に関心が向きやすいものですが、静かに自分の内側に目を向けましょう。聖霊による整えと恵みは私の実生活を変えます。まわりの環境の変化と解決を求めやすい私たちですが、環境よりも私自身を変えてくださる主がおられます。

聖会や集会、またキャンプを通して語られる御霊の声を心を開きましょう。自分自身が変わえられ、満たされ、整えられるときに、自然と問題も解決していきます。

また聖会の前に「渴き」をもって主の前に集える人は幸いです。人は渴いているときに、主の恵みを慕います。しかし、心が他のもので一杯なときには、神の恵みがこぼれてしまいます。

日々の課題や対人関係によって内側に「渴き」を覚えるとき、主は私の心を満たしてください。主は、渴いて空腹な者に、恵みを注ぐことに長けたお方です。「この渴いた心に解決を」と主の前に出しましょう。

「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。」

(ヨハネ七章37節)

神学・宣教研究委員会

ホーリネス運動の中の インマヌエル教団の 立ち位置を考える

委員長 葛田崇志

数年前「きよい教会を目指して」と銘打って、聖徒の交わりの中で聖化がどのように実を結ぶのかを学びました。役員研修会等でも幸い学びを重ねたことを思い起こします。丁度その頃、神学委員会では、きよめの教理を改めて学ぶように、と宿題を頂きました。それで次号論集の主題を聖化に定めて会合を重ねております。

聖書という大枠があり、ウエスレアン独自の視点、さらに言えば日本のホーリネス運動の流れがあり、その中でインマヌエル教団が追求し証しする、そのようなきよめの側面と私たちは絶えず向き合ってきました。つまり聖書的なきよめがある中で、インマヌエル教団ならではのかたちをとるきよめの世界です。

この度の論集では、教理的・釈義的研鑽も然ることながら、私たちの講壇と生活に寄り添った学びを心掛けています。この時代の私たちの講壇からきよめがどのように語られ、主にあるお互いが如何にホーリネスを生きているのか、何を目指すのかを探りたいと願っております。お祈りください。

引退牧師を支える働き

厚生委員会からの報告

60名の先生方を支援 引退後の生活の安定を 研修会を継続して開催予定

厚生委員 内山忠信

6月28日に、厚生委員会が開催されました。以下、報告します。

●会計

厚生部の会計の主な収入は、厚生部費(本部費の20%)、厚生資金献金(2012年から上下半期献金の5%を厚生資金献金に加えていただいております)、謝恩日献金と運用益です。収入は2012年をピークに年々減少しております。厚生資金献金(上下半期献金分を含む)はピーク時よりも20%減となっております。

主な支出は、退職金と支援金です。今春、6名の先生方に退職金を支給いたしました。現在、約300万円の支援金(受給者60名)を毎月支給しております。

今後しばらく引退者が増える見込みです。支援のための必要が満たされ続けるよう、お祈りとご協力をよろしく願っています。

●細則の追加

総務局厚生部細則第7条に第2項を追加しました。第2項は条例

審議委員会並びに教団運営委員会で審議され、承認されました。

2 教団外派遣で、外部団体から退職金が支給される場合、教団外派遣期間は在職期間には入れない。また第7条で定められた給付額から外部団体から支給された退職金額を差し引いた額が本人に支給される。

●研修会

最近の厚生委員会の新たな働きは「二足先の未来を考える研修会」です。昨年(4月1日現在)70歳、75歳前後の牧師を対象に開催しています。この研修会は、全牧師必修となっております。

研修会の目的は、①引退までの奉仕に備えるためです。年齢を重ねる中で、健康や認知機能に課題を感じる場合があります。課題を具体的に知り、現在の奉仕に役立っていただきたいと願っています。

②教会のメンバーが高齢化する中で起こる問題、特に認知症に、どのように対応すればいいのかを学ぶためです。

③引退後に備えるためです。引退直前に考えるよりも、前から備える事は有益です。

今年は5月30、31日の2日間、オンラインで開催し、14名の参加でした。「これからの事を考える機会となり感謝」「認知症の理解が深められ感謝」などの感想が寄せられています。

来年も開催しますので、研修会の案内を受け取られた先生方は、ぜひご参加ください。

ご協力に感謝申し上げます。

若手牧師研修会報告

「もう一度召しを考える」
召命を確かなものに



教育局長 小川宣嗣

を通してガラテヤ一・一より、パウロの使徒としての召命理解について語られ、人から出たものでなく神からの召しによるものであることが確認されました。
続いて、講師の國重潔志師より、「聖書から召しを考える」という発題がなされました。
1 キリスト教と召しⅡ旧約における召しの二重の意味、神からの呼びかけにどう応答するか、神から自分がどうあるのかが決まづけられ、その事実を基に行動すること。

神学院卒業後7年以内の牧師方を対象とした今年度第1回目の牧師研修会が、7月5日(火)午後10時に開催されました(参加状況は、対象者12名中10名+スタッフ7名、合計17名でした)。

今回のテーマは、「今、もう一度召しを考える」……牧師として奉仕する中で、折々に直面する危機的な場面を乗り越える鍵となる召命経験や理解について改めて考えてみよう、というものでした。冒頭の小礼拝では、葛田順子師



その後は少人数に分かれて分かち合いの時を持ち、最後に佐藤信行師がルカ二・31、32から、ペテロの召しの危機と、そこから立ち直らせてくださる主の祈りについて語ってくださいました。召命について再考・整理する幸いな機会となり、感謝しました。

条例審議委員会から

式文改訂に向けて
『パイロット版』
いかがでしょうか?

条例審議委員長 葛田順子

先日お手元にお届けした式文改訂案のパイロット版は、もう使ってみていただけましたでしょうか。推敲を重ねたつもりではありましたが、文章として読んでいただけの時には気がつかないこともありますので、ぜひ、実際の場で使ってみていただきたいと思えます。すでに全文もPDF版でお届けしていますので、機会がありましたら、パイロット版に含まれていない部分も(お手数ですが)プリントアウトしていただき、使ってみていただけると幸いです。

B6版でお届けしたパイロット版ですが、正式出版の際には従来通りの大きさ(A6版)になります。ページ割などは変わって来ると思われますが、実際の場面で使いやすいように、見開きなどは工夫する予定です。
ご意見やご提案などのあて先は条例審議委員会です、今年いっぱい受けつけています。現場の声も踏まえ、もっとも良いもの、使いやすいものに整えることができますように願っています。引き続きお祈りください。

第8回 YSBリトリート報告

神のデザイン~
私の中の〇〇発見~

次回は11月に開催

聖宣神学院教会 関根とも子



神のデザイン ~私の中の〇〇発見~ 2022.7.3



第8回YSBリトリート

慣れてきたオンライン開催
オンライン開催となつてからのYSBは、回を重ねるごとに内容が磨かれ、ただ聞いているだけでは、参加型の集会になつてきたのではないのでしょうか。賛美動画や、教会紹介動画は毎回好評です。その他にも今回は、テーマにちなんで簡単な自己分析テストも行いました。その後、田辺寿雄先生のメッセージと分かち合いがあり、2時間があつという間でした。終了後も約1時間フリータイムとして場所を残して寿雄先生とのQ

&Aの時を持ち、楽しい時間となりました。
■今回のテーマについて
私たちの性格や性質は神さまのデザインである、それがどうということなのか。しっかりと捉えて受け止めた先に、何か新しい発見があるという考え、委員で話し合つて今回のテーマが決まりました。田辺寿雄先生からは、聖書が教える自己理解とは、「神によって造られた自分を理解すること」であり、「神に愛されている自分を認めること」であると語られ、神さまがデザインされた自分自身を愛することの大切さを学びました。そして、私たちはお互いに違いがあること、さらに社会、学校、家庭や教会において違いがあること、それこそが神さまのデザインであり、素晴らしいことであることを教えられました。
■委員として
約1年前、ひよんなことから委員に加わるようになりました。かつてYSBを立ち上げたメンバーと、再びYSBとしてともに活動できる恵みに心から感謝します。次回は11月、今回の発見をどう活かすかをテーマに開催予定です。対面での実施を望む声も多数聞かれています。オンラインの良さ、対面の良さ、それぞれを活かした形で今後も交わりの輪が広がっていくことを願っています。

国内教会局から

コロナ禍にある教会
何を見ている？

毎日トップニュースとして、コロナ第7波による予想を超えた感染者数が目に飛び込んできます。その他にもウクライナでの戦争、元首相の殺害、経済問題など常に流れて来る良くないニュースが目に向けてしま



います。人は目にするものに影響を受けやすい存在です。イエス様から目を逸らし、風と波を見て恐れて沈みかけたペテロではありませんが、目にする悪い情報によって、気が滅入ったり、希望を見出せないように感じてしまうことがあるかもしれませぬ。

私たちにも「あなたは何を
見ているのか」と語りかけてくださるのではないのでしょうか。悪いものではなく、最も良いものを見るように、そしてそこに信仰と希望と愛を見出すように勧めてください。

「信仰の創始者であり完
成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。」
(ヘブル二・2) (阪下謙)

■英、プーチン氏支持のロシア正教会総主教に制裁
AFP通信によると、英外務省は6月16日、ロシア正教会の最高指導者キリル総主教(75)に対し、プーチン大統領に対する支持とウクライナ侵攻への賛同を理由に制裁を科したと発表した。

キリル総主教をめぐっては、欧州連合(EU)が2週間前に、加盟国であるハンガリーからの反対を受け制裁対象から除外していた。

■ナイジェリアで武装集団が村や教会襲い30人以上拉致
ナイジェリア北部カドゥナ州カジュルで6月19日、武装した集団が、マラナタ・パプテスト教会と聖モーセ・カトリック教会を襲撃し、少なくとも3人を殺害、2人

■ウクライナの国外避難民、ロシア侵攻後700万人超す
ジュネーブ発共同通信が、ロシアが侵攻したウクライナから国外へ脱出した避難民が6月8日まで700万人を超えたとする国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)の集計を報じた。

最も多く受け入れているポーランドには369万人が入国し、ロシアには104万人が移った。一方、2月末からウクライナに入国したのは231万人に上っている。このうちただだけが、帰国後に再定住しているかは分かっていない。

■10年に一度のキリスト受難劇
今年は予定より二年遅れて上演
ドイツ南部バイエルン州ガルミッシュユールパルテンキルヒェン郡オーバーアマガウ村で10年に一度演じられるキリスト受難劇(パッションプレイ)が、今年5月14日から10月1日まで行われている。この劇は1634年に初めて上演



海外トピックス

私たちにも「あなたは何を
見ているのか」と語りかけてくださるのではないのでしょうか。悪いものではなく、最も良いものを見るように、そしてそこに信仰と希望と愛を見出すように勧めてください。

9月の新講座はもうそろそろですが、夏休みなどに過去の講座にチャレンジしてみるのもオススメです。Zoomのアカウントを一度作っていただければ、どの講座もそのまま受講できます。担当 大津博子

eラーニングのご案内

クリスチャンセミナー
「包括的福音」
を求めて

担当 大津博子
ohtsu@immanuel.or.jp
http://grace-online.jp

■高橋秀典先生の「へブル人への手紙——私訳と解説」
■久保木聡先生の「NVCを学ぼう——裁くことから自由になる」
■藤本満先生の「ウエスレー」「マルコの福音書」「聖書読解法」
■石田学先生の「ペトロの手紙1」
■中村佐知さんの「霊的観点からみる境界線」(前期)(後期)
■中山信児先生の「福音を生きる教会の讃美」

包括的福音を求めて
包括的福音を求めて
2022.09.12(日) 受講費5500円
2022.09.19(日) 受講費5500円

献身を考えるシリーズ

献身の証し ## 対話者 ## 伴走者 ## 納得

北九州教会 峯尾仰生

でした。大学受験の際に信頼していた先生から見離された時、就活の面接で落とされた時、エンジンアとして働く中で自分の限界に直面した時、誰の言葉も聞きたくない状況で、私と静かに伴走してくださる方々が教会におられました。母教会の徳田先生ご夫妻や別府・大分・中津で教会生活をともにした方々です。この伴走者の存在を通して、主にある温かなつながりを体験的に知り、私は対話を続けることができました。

「わたしは、あなたとともにいる。……このわたしがあなたを遣わすのだ。」(出エジプト三・12) 私の直接献身には3つの土台がありました。それは「対話」と「伴走者」と「納得」です。

1つ目の「対話」には3つの軸(聖書・現状・教会)がありました。私の召命は特定の場所で瞬間的にガツンとあったというものではなく、日々の小さな対話を通してジワジワと心に語りかけてくるものでした。その過程にあつて左記の3つが対話の軸となり、直接献身への指標となりました。

- ・聖書〓みことばによる励まし
- ・現状〓家族・経済・健康・奉仕
- ・教会〓牧師と信徒の承認

この対話は受験や就活、就職などの進路選択をする状況でより深まりました。しかし、環境の変化によって生じる葛藤や躓き、多忙の中で対話する気力すら湧かない時期もありました。

そのような時に、支えとなったのが、2つ目の「伴走者」の存在

そして、対話の中で最終的に与えられたのは3つ目の「納得」でした。献身に対する聖書からの励まし、現状の整え、伴走者による教会の承認、この一つひとつの歯車が動き出した状況を見て、直接献身への静かな納得が与えられました。この納得は、私の何かで与えられたものではなく、「神様が与え、開いてくださった道である」という視点を通したジワジワと心に浸透してくるものでした。この納得を与えてくださった対話は現在も継続中であり、これからもずっと続くものだと思います。今もなお、対話を通して、一歩下がること、一旦止まること、そして、新しい道に挑戦することへの示唆を受けております。

これまでの歩みを振り返ると、何と対話し、誰が伴走者で、どのように納得したのか、これが土台となっておりまして。今後も、この土台を通して、新しい視点が与えられるのだと信じております。

私たちが一人ひとりの人生には主の確かなご計画がある、そのことを疑う人はいないでしょう。しかし、それがどんな道なのか今一つ確信が持てない、ということはあると思います。

献身を考えるシリーズ

神さまの御声を
聞くために……

神学院に行こう!

南日本BA 阪下 謙

私たちが一人ひとりの人生には主の確かなご計画がある、そのことを疑う人はいないでしょう。しかし、それがどんな道なのか今一つ確信が持てない、ということはあると思います。

そのような私たちに主はこれから歩む道を確認に備えていてくださり、「これが、わたしがあなたに準備した道だから、こちらに来るように」と語りかけてくださいます。これが主の召しです。

イエス様は最もふさわしい時に私たちに声をかけてくださるお方です。このような主の語りかけを聞き、その道を発見できたら、これ以上の幸せはないでしょう。そしてその道は自分にとって間違いなく祝福の道です。

* さいて、聖言神学院では、8月14〜15日には夏フェスタ、10月にはオープンキャンパス、12月にはトリートが計画されています。イエス様は私たちにどのような道を備えられているのでしょうか。参加してみても、私たちに語りかけられる声に耳を傾けるときを持つてみてはいかがでしょう。

神学院からのご案内

BTCの夏・秋・冬 神学院を楽しくフェスタ



神学院寮監 田辺寿雄

教育局青少年部と協力のもと、聖言神学院では以下3回のイベントを計画しています。

- 第一弾 BTC夏のフェスタ 8月14日(日)〜15日(月)
- 第二弾 BTC秋のオープンキャンパス 学ぼう 10月21日(金)〜22日(土)
- 第三弾 BTC冬のトリート 12月末日

コロナ対策のために一部屋に一人の宿泊とするなど、人数を制限しなければならず、今回は18〜39歳の方を対象に、定員を20名に限定しました。神学院未体験の方や神学院に関心のある方、また将来献身して神学院で学ぶことを考えている方などに、神学院を訪ねて知っていただく機会になればと願い、何度も委員会を重ねて準備を進めてまいりました。

「楽しもう」が夏のフェスタのテーマです。14日(日)の夕食は、「中目黒スタアーズ豪華ディナー」。

「中目黒教会の女性信徒方による手

作りのディナーをお召し上がりください。夜は外で「BTCファン・ナイト」(賛美やBTCにまつわるクイズ、キャンプファイヤーにメッセージと文字通り楽しく、心燃やされる夜になることでしょう。二日目、15日(月)の午前は分かち合い、BTCツアア、チャペルの時間をもち、昼食は「BTC史上ベストランチ」となっています。以前のBTCでの昼食と言え、うどんでした。今はどんなランチが出されているのでしょうか? お楽しみに。最後は分かち合いの時間をもって解散です。なお、個人的に神学院のことをもっと知りたい方や献身を考えている方のためには、喜んで時間を取り、お話を聞かせていただきますので、お気軽にお声がけください。

委員会は毎回楽しいものでした。様々な突飛なアイデアも出ました。特にメニューについては、言うだけならただですから、沼津港直行のマグロはどうか、仙台から牛タンを持って来てもらおう、朝食は「ガリラヤ湖朝食」と銘打って、焚火で魚を焼こう、等々。昼食には久しぶりに神学院のうどんが食べたいという意見も。一体誰のためのイベントなのか、時に忘れそうになるほどにほんとに楽しい委員会でした。すべては神学院を愛する牧師たちの熱き思いから出てきたものと信じています。

祝福をお祈りください(コロナの状況によって開催方法やプログラムは変更の可能性があります)。

祝福をお祈りください(コロナの状況によって開催方法やプログラムは変更の可能性があります)。

巻頭言

11月の宣教月間に向けて



世界宣教局長
田辺 寿雄



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

まだ少し先のことですが、例年通り今年も11月を宣教月間、その第三日曜を宣教聖日礼拝とさせていただきます。ご案内いたします。
*宣教コイン献金にご協力を

毎年、二百万円前後が全国から献げられています。硬貨の取り扱いはゆえの面倒さもある中、各教会の会計担当の方々には多くの犠牲とご労を賜り、心より御礼申し上げます。少しずつ貯金した小銭を宣教聖日に教会へ持つていくことが恒例となっている個人やご家族も少なくないことでしょう。硬貨の入金に手数料がかかることについては大変心苦しいところですが、今回までは従来通りに実施させていただきます。今後どのようにするかはただ今検討中です。ご意見などぜひお寄せください。
*宣教月間に向けて
●宣教聖日DVD(動画)をご活用ください。「温故知新、過去を知り、未来に向かって」世界宣教が今年のテーマです。

●宣教聖日礼拝をお持ちください。第三聖日(11月20日)かその前後の日曜日を宣教聖日礼拝とし、その中でDVDを見て、宣教師のために祈る時をお持ちください。礼拝が無理な場合は、礼拝後や祈禱会などの時間にどうぞ。宣教聖日礼拝を越える次の週からアドベントが始まるのが伝統になっている教会もあるそうです。
●宣教祈禱カレンダーをお送りします。11月の30日間、宣教の働きのために毎日お祈りできるように、祈禱カレンダーを作成する予定です。全国の牧師と信徒で心を合わせてお祈りしましょう。
●11月29日(火)、IWF70周年記念集会をオンラインで開催予定です。イマヌエル、グローバル・パートナーズ(旧ウェスレアン)、ワールド・ゴスペル・ミッション三者によるこれまでの協力関係を振り返り、感謝をささげます。
●4回ある11月の聖日、広い意味での「宣教」をテーマとした礼拝とすることもできるでしょう。例えば宣教聖日礼拝に加えて、伝道礼拝、救霊のために祈る礼拝、迫害下にある国々や教会のために祈る礼拝、世界食料デー礼拝、世界の平和を祈る礼拝、日本へ来た宣教師や宣教の簡単な歴史を紹介する、などです。
私たちの目を外へ、世界へ向けるために、様々な工夫ができる教会でありたいと願います。
「目を上げて畑を見なさい。」
(ヨハネ四章35節)



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2022年7月5日

5月に入るところから、新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増え始め、5月の末ごろからは台中市だけで1日の感染者数が1万人を超え、6月に入ってもしばらくその数字が続きました。特にワクチン未接種層での感染が多いため、高校以下の学校も市政府よりの指示で完全オンライン化となり、日本人小学校もオンライン授業が6月いっぱい続くことになりました。教会の関係でも職場などでの感染の話聞くことが増え、諸般の事情を考慮して、6月はすべての集会を原則オンラインにしました。対面の集会に参加を希望される方もいますので、ハイブリッド(対面+オンライン)という形を取りましたが、ほとんどの方はオンラインを選択されていました。7月に入って、少しずつ減少傾向にあるようです(1日の感染者数は全国で35,914人/台中市は4,970人)が、対面の完全再開についてはもう少し様子を見る必要があると感じます。集会が原則オンラインになったことを受けて、にほんごカフェも原則オンラインとなりました。講師役の信徒の皆さんも責任を分担してくださって毎週カフェが続けられています。



オンライン期間がどの程度になるか予測できませんでしたが、今のうちにできることをしておこうと、教会内の引越越しをしましして使っていた広い場所と、親子室として使われていた場所を原則入れ替えるという作業です。にほんごカフェのために礼拝室とは分けて教室として使えるスペースがなかったのですが、オンライン期間の利点を生かし教室スペースを設けることができました。対面集会・クラスが再開された際に用いられるようにお祈りください。■



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2022年7月11日

「あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」

(箴言三章6節)

コロナ禍のために延期されていた第9次総会が開催されました。1日目は各局長からの報告と承認、2日目は各決議に対する質疑応答、採択、そして要職の選挙投票が行われました。最終日には各要職の就任式典が催され、式典では総理ジャーニー・ギリアモ先生より伝道者の教訓に関わるメッセージがなされました。そしてその後には各要職の就任式がありました。常喜は、各局長への誓約の辞と祈りのことばを読み上げました。今回の総会では聖書大学の校長も新しく選出され、暫定校長であったジャンレイ先生に代わり、かつて校長だったボン・ワギ先生がロサリス校の新校長として再選出されました。ウエスレアン教会の総理を始め、それぞれ要職に就かれた先生方のために、そして彼



らのリーダーシップのためにお祈りください。また、新しい総会期に入ったウエスレアン教会がよいよ祝福されますようにお祈りください。

子どもたちの今後の教育のことを検討しマニラに移住することを決めましたが、なかなか住居が見つからない状態が続いていました。そんな折りに、ナザレン・セミニナリーでコロナ禍において空いた住居をキャンパス外の人(とりわけ宣教師)に貸し出すことになったという情報が入りました。すぐに連絡を取り、私たち家族が住むのに適したアパート(男子寮)があり、安全の確保、予定している学校からの距離、そして手頃な家賃が決め手となり、借りること

にしました。

6月21日、キャンパス内に住む職員とご家族をお招きして食堂で感謝会を開きました。感謝会は讚美と前総理夫人ベレン先生からのメッセージで祝福に満ちたものとなりました。ここでの生活で受けた神様からのたくさんの恵みに感謝しました。

6月24日、ロサリスからリーザル州タイタイ市にあるナザレンセミニナリーのキャンパス内に引っ越すことができました。早朝に私たちの荷物を搬送してくれるトラックと運転手と助手が到着し、荷物をトラックに詰め込み始め、約1時間後には積み終え、トラックが先に出発しました。私たちは家を片づけてから出発しました。宣教師が出発する際、校長先生ご夫妻や両隣の先生ご一家が来てくださり、最後には前校長ジャンレイ先生がお祈りをもって私たちを見送ってくださいました。

私たちは引越のトラックに2時間遅れて夕方に到着しました。以前ロサリスで一緒に働き、お隣に住んでいたサゴッド先生一家が私たちが住むアパートの隣に住んでいて、ご夫妻で挨拶に来てくださっていました。ちょうど飲料水を切らしていたところ、夫のレニール先生が水が入ったコンテナを一つ肩に担いで持ってきて差し入れてくださり大変助かりました。良き助け手も与えられ感謝です。まだまだ整えられていない部分もあります。とりわけ、子どもたちの行く

学校が正式に決まりますようにお祈りください。

これからの働きとして、常喜は新学期が始まる頃にロサリスに2ヶ月ほど滞在し、神学教育の働きに携わることになります。マニラでは地域のウエスレアン教会を訪問や奉仕を通してサポートします。すでに2つの教会から奉仕の依頼がありました。

ウエスレアン聖書大学では、以前教室が併設されていたチャペルの拡大工事に伴い、教室が無くなってしまい、学生たちが学ぶ教室の確保が困難となっていました。が、今月末、職員室を備えた新校舎建設のための輸入式が挙行されました。予算はまだ足りていませんが、信仰を持ってこの建設計画に取り組み始め、案内がなされ、この計画に霊的に、財的に加わる方々が起こされています。できれば、教室だけでも新学年度開始の間に合せることができればと願っています。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2022年7月2日

「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、...御霊による一致を熱心に保ちなさい。」

(エペソ四章2-3節)

今月のスカイプトーク(S.T)でこの聖句に勧められている「一致」に関わるお証しが報告されました。一致して主にお仕えできる鍵は謙遜・柔和・寛容・愛が鍵だと教えられる御言が与えられていることに感謝しています。

恒例の月末S.Tにて報告された主のみわざはまさにこの聖句の通りで、主の御霊がその問題においても勝利を与えて下さる事を領かせられました。

今月はグレッグ師のことを中心にご報告します。1時間半の語り合いでしたが、短くても本心に恵みと祝福に満ちたひと時となりました。グレッグ師が本主に主の御前にある決断の時が与えられたとのこと、それは彼の生涯と奉仕を、カンボジアに真の自立自給の教会建設が成るまで、骨を埋める決断をされたというお証しでした。お聞きしながら、涙がこみ上げてくるような感謝のひと時でした。主に全的献身をして労してきたつもりでしたが、困難が続く中でいつの間にか自分の思いが中心となり、当然同労者同士の一致が欠けてきて、ヴァンデイ師も私もそれに気がついて祈っていました。主は一人の弟子訓練を受けている姉妹、チェンダ姉を用いて触れなさいました。彼女は教会の指導

者間にスッキリとした御霊の一致が薄らいでいる事を雰囲気から察知して、ある時G師にこう質問をしてきました。「どうして教会はちよつとグループができるとうぐセパレートしようとするのですか？ 教会は一つの群として協力できないのですか？」

その晩、G師は主の前に出て決断をしたそうです。それは、①自分の全生涯をカンボジアに捧げ、母国である比国にはもう帰らない、という不転の献身と、②主がここカンボジアに自給自足の教会建設を成就して下さるまでKCCの働きを放棄せず、V師と一致協力のもと働きを継続するという決断です。これは神様との個人的関係が確立する事なしに、人間的覚悟だけでは不可能な事で、御霊に明け渡し続ける生活なくしては不可能です。この決断に至るべく用いられた器が信仰生活にまだ若年の姉妹チェンダ姉だった事は大きな衝撃でした。

V師とG師はそれぞれ賜物、性格が異なり、これまではそれぞれ分野を分けての働きでした。表面的に深い所にあるものが、「表面的一致」で隠されておりましたが、主は一人の姉妹を用いて御業をなして下さいました。これはV師にとつては大きな重荷からの解放です。一言、皆様のお祈りの結果である事をお伝えして、ともに主の喜びに与っていただければ幸いです。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2022年7月8日

前号で、ケニア出国、日本入国の手続きが出発当日の朝に整った事を書かせていただきました。ワクチン接種の3回のうち、「最初の2回は日本で承認されていない製造会社のもので「接種無し」扱いになり申請が差し戻されたり、当日宿泊所に配達されるはずの「日本向け」の証明書が手元に届かず、一般的な様式の証明書は日本入国申請に際して必要な項目が記載されていないと差し戻されたりしました。

日本向けの書類は連絡の行き違いで実際は届いていたことがわかり、本当に感謝でした。その書類を撮影して再送信し、やっと申請が通り、日本に入国できる事が確定しました。

「検査なんて空港でもできるのに」とドライバーさんにも言われましたが、「日本向け」の書類を作ってくれるクリニックにわざわざ行ったかがありました。乗り継ぎでも、「その様式」の書類の

提示を求められ、ケニアを出たものの日本に入国できなかった、という事態にならなかったことを本当に感謝しました。

空港への道も渋滞で微動だにしない一般道路を横目に見ながら、ほとんど車の無い高速道路を走って本当に10分ほどで空港にスムーズに到着しました。ナイロビに詳しいPさんに運転をお願いできたのも、主の憐れみだったのか、と思いついた事です。航空便は出国の少し前に回復したと聞いていますが、まだ船便は使えないため、手持ちが多くになりましたが、Pさんと息子さんが入口に入る直前まで荷物を助けてくださいました。

今期初めて持ち込んだスマートフォン。検査やワクチンの証明書の提示、日本入国の際の検疫の手続きなど、もしスマホが無かったらどんなに大変だったことかと思えます。7時間位かかることもあると聞いていた入国の諸手続きも50分ほどで済みました。入国から1週間ほどして、ケニアの感染率が上昇したと聞きました。まだケニアが「安全」と分類されているうちに入国が許されて感謝でした。オフィスが閉まる1時間ほど前に出口を出られたので、日本用の携帯電話の切り替えも空港でできました。

ミッシェンハウスの水口兄弟ご夫妻に暖かく出迎えていただき、日本での生活が始まりました。1週間の自主隔離後、役所の手続き、買い物、電車の使用、起床時間の

調整など、少しずつリハビリ中です。水道水がごくごく飲めること、すすいだ食器がすぐ使えること、ニラ、こんにやく等日本ならではの食材など、さまざまに感謝しています。■



■会計報告6月分

宣教献金 八六二、二六〇円
月平均 一、三五三、八六九円

お祈りの課題

台湾(久保)

◆新型コロナウイルスの感染が収まるように。猴痘の症例も報告されています。守られるように

◆オンラインの継続を余儀なくされています。対面集会が一日も早く再開できるように

◆コロナの影響に左右されず、宣教活動が継続できるように

◆新校舎建設の経済的必要性のため聖書大学では新年度(2022年8月)から対面授業が再開されることとなりました。準備を整えられて、各所方面からの条件を克服することができるよう

◆事故、事件、怪我、過ち、災害、病气、疫病から家族が守られるように。子どもたちの学校のために

香港(鹿島)

◆今年の香港の夏休みはコロナ禍の影響で変則です。現地の教会の夏の営み・集会が守られ祝されるように

◆近隣への出入り枠が少しずつ広げられてきています。指定ホテル隔離が緩和されるとともに速やかに入国マルチビザが取得できるように

◆お隣では、様々な理由(オンライン規制など)から礼拝がさげに弱くなっています。支障が取り除かれるように

カンボジア(葛田縁乃)

◆引き続き、カンボジアにて労する宣教師、牧師たちの心が聖霊による一致に基いて力を合わせ、愛と謙遜、忍耐の限りを尽くして救霊に実を結ぶ働きがなされるように

◆今進行中の青年姉妹、若いカッブルたちの弟子訓練が主の御心に適う弟子が輩出される働きとなるように

◆ヴァンディ師のご両親と妹のコンチー姉のたましいの救いがなされ、村全体に福音が宣べ伝えられる証し人と変えられるように

ケニア(葛田就子)

◆無事帰国が許された感謝

◆感染率再上昇の中、病院の働きが、福音の深化と伝達のために用いられるように

◆麻酔科、整形外科、主任室等の働き人(ルカー〇・C)が起こされるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

あらゆる境遇に対処する秘訣

院長 ● 林 正弘

「私は、……ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。」(ピリピ人への手紙四・12)

*

8月は夏期実習が始まり、実習にあたる神学生にとっても、送り出す神学院にとっても、ふだんと違った営みとなります。コロナ禍3年目となる今年の夏は、徐々に以前のように動けるようになってきたと感じていましたが、また新規感染者数が急増し、対応に苦慮しています。夏を越えたとき、どのような夏であったと振り返ることができるのか、今は分かりませんが、私たちの歩みには、想定外の

ことが多く起こります。

パウロの生涯においても、思わぬ出来事が多くありました。ピリピ人への手紙は、彼が投獄されているときに記されたものです。そのなかでパウロは「ありとあらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています」と言っています。現実の厳しさを知る私たちは「パウロ先生理想としてはそうですが、ちょっと言い過ぎではありませんか」とパウロはどのような意味でこう言ったのでしょうか。そのすぐ前に記されている「私は、どんな境遇にあっても満足することを学び

ました」ということばにヒントがあります。彼は障害物を打破し、境遇を変えて対処したのではなく、そこで満足したのです。願った形ではなくても、急な予定変更があっても、そこに満足があるので対処できたのです。決してあきらめたのでも、妥協したのでもありません。強がって言っているのではありません。「学びました」とあるので、多くの経験を通してそれを会得したのだと思います。

私たちもさまざまな境遇に身を置きます。周囲の影響を受け、苦しむこともあります。しかし、状況に支配されてしまわずに、生きるべき道を見いだしていけるのです。「私を強くしてくださる方」に信頼し、その秘訣を学んでいきたいと思います。



夏期実習中の神学院キャンパスは静かです

神学エッセー

たましいの錨



宮崎聖輝

「私たちが持つているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり」

(ヘブル人への手紙六章19節) 教会のシンボルと言いますと何を思い浮かべるでしょうか。まず真つ先に思い浮かべるのは十字架ではないでしょうか。意外ですが、初代教会時代には、十字架がまだ処刑の道具として用いられていたため、むしろ他のシンボルを教会の信仰のイメージとして用いることが多かったようです。例えばローマのカタコンベなどに刻まれている魚(イクス)なども有名ですし、また「舟」も教会のシンボルとして用いられました。

そうした教会やクリスチャンの信仰を指し示すシンボルのひとつに「錨」(アンカー)がありました。特にこのイメージは第一世紀の初代教会でしばしば使われたようです。意味するところは、冒頭のことばにあるように、錨が、私たち信仰者の信仰(希望)を示し、その錨を、たましいの深い海底にイエス・キリストにおろ

す。そうした時、たとえ海上において、激しい嵐が吹き荒れるような試練の只中に置かれても、たましいの深いところでキリストと結ばれているなら、表面は揺れていても、決して流されることはない。キリストが私を離さず掴んでいてくださるから、安全で確かな航行を続けることができる。そのような思いを込めて錨を信仰のシンボルとして用いたようです。

これは初代教会の時代だけではなく、現代においても同様ではないでしょうか。私たちの人生には本当に思いがけない突然の嵐が襲うことがあります。個人だけでなく家庭もその嵐に巻き込まれることがあります。しかし、クリスチャンの幸いとは、そうした嵐に遭遇しないことではなく、たとえ遭遇したとしても、たましいの錨をキリストにおろしているなら、流さず、安全で確かな航行を続けることができる。たましいの深いところでキリストが私たちを支えてくださる、そうした幸いです。

嵐が起つてからではなく、平穏な日常を過ごすときから、日々、神のことばに深くたましいの錨をおろしましょう。祈り、黙想の中で、たましいの錨をイメージしながら、神が約束してくださっている一つひとつのことばに、そしてキリストご自身に望みを置いて日々を歩ませていただきます。そうすれば、たとえ嵐が襲ってきたときも、主が私たちを守り、支えてくださいます。

◆前期の学びを振り返り

人格的関わり

正規コース 石川 順

「あなたも行って、同じようにしなさい」(ルカ一〇・37)

*

ある日曜日の朝、眠気まなこで神学院を出発し実習教会へ。田植えをしたばかりの田んぼ道を通り過ぎ最寄りの駅まで歩いて電車に乗った。別の路線に乗り換えるために電車を降り、改札を出て歩いていたら、通路に一人の人が座っていた。一目でホームレスの人だと分かった。横目に見ながら私は、その人の前を通り過ぎた。そして、改札へと向かって行ったその時、イエス様の譬え話が頭をよぎった。それは「善きサマリヤ人」の話だった。今の自分は、あの譬え話に出てくる祭司、レビ人と同じではないか！いや、でも教会に行かなくてはいけないし、と自分に言い聞かせた。しかし、改札に入ってしまったら後悔すると思い、向きを変え通路に座っていた人のところへ行き、その方に声をかけた。「おはようございます。どうされたんですか？」お話を聞くと、コロナで仕事を失い、生活保護の申請をしているが、他にも申請し

ている人が多くて順番待ちになっているとのこと。そして、その間ネットカフェでなんとか生活をしているということだった。5分ほどお話を聞かせていただいた後に、その方は「話してくれてありがとう」と言っておられた。少しの気持ちをお渡しして、その後教会へ向かった。私は、教会に向かう電車の中で色々なことを考えていた。なぜ自分はこの人の前を通り過ぎたのだろうか。自分のしたことは偽善ではなかっただろうか。私はあの時、自分はこの人とは違うという「違い」を感じていた。しかし、私もあのホームレスの人も神様が造った同じ人間ではないかということに思いが至った。今まで、私は無意識に自分と他人とを差別化していたことに気がついた。私はあの人のようではないと。醜い罪人の自分があることを認め、神様にお祈りをした。私はあの時、通路に座っていた人に「してあげた」という感覚が少しはあったように思う。では、逆に私は何を頂いたのであろうかとふと思った。振り返ってみて、私はあの通路に座っていた人から他者に声を掛ける「きっかり」を頂いたと思った。声を掛けることは私にとってはチャレンジだった。しかし、神様に勇気を頂き、声をかけて少しの間関わりを持つことが許された。それは恵みの時だった。なぜなら、彼の人格に触れたからだ。会話の中で彼は「日本全国を旅することが夢な

んだ」と自分の夢を語っていた。私は、そこに人格的な温かさを感じた。このような関わりを通してキリストの福音が広がっていくことを願う。

◆前期の学びを振り返り

遣わされた神を見る

正規コース 林 真光

「わたしが、あなたとともにいる。これが、あなたのためのしるしである。このわたしがあなたを遣わすのだ。」(出エジプト記三・12)

このお証しを書かせていただいた時は前期の締めくくりの時、授業のテストやレポートなどの課題に取り組んでいます。8月号の教報が発行されるころには、前期の授業が終わり夏の実習期間に入っているかと思えます。振り返ると様々な人に支えられ、助けられた前期でした。皆様のお祈りとご支援を心から感謝いたします。前期の実習では様々なことを経験させていただきました。コロナウイルスの感染が落ち着いてきたこともあり、教団や教会のイベントが再開してきました。特に私は中高生科の担当をしているので、日曜日の礼拝説教、夏のキャン



長年の風雨で傷んだガレージの屋根をふき替えました

の準備、教会のメンバーの牧会など様々な奉仕をさせていただきました。その中でも夏のキャンプは久しぶりに対面の宿泊付きで開催するという事が決まり準備を進めています。宿泊は3年ぶりという事、またコロナ禍の宿泊で今までは違う対応になるということで探り探りで準備を進めています。そのような中忙しさを覚え、自分自身の能力の限界を感じる事が多々ありました。不思議なものやらなければいけない事というのは集中します。キャンプの準備だけではなく神学院の事や実習をしている教会の事で取り組まなければいけない事がたくさんありました。そのことに取り組む中で自分のやりたいことがなかなかできないと悩んだり、別の人がやった方がスムーズにいくんじゃないか

と思う事もありました。

その時あるみことばが心に思い浮かびました。それが冒頭に書かせていただいた出エジプト記のみことばです。このみことばが心に浮かんだ時、自分が忙しくしている中でも神様はともにいてくださって、そして「わたしがあなたを遣わす」と言われるように、責任をもって私を導いてくださるんだなと少し安心しました。自分の弱さや限界を認めつつ、自分を遣わしてくださる神様の導きを信じたと思います。そして目の前のやるべき事だけではなく、日々ことばに触れ、祈りつつ遣わしてくださっている神様を見上げ続けたと思います。

神様はモーセに助け手としてアロンを遣わされました。振り返ってみると私が忙しくしている時も、教会や神学校の交わりの中で様々な助け手が与えられています。一人で重荷を負うだけではなく、交わりの中でともに支え合う大切さを実感しています。

夏の实習でも様々な困難や自分の限界に直面して悩むかもしれません。今年の夏は特に忙しそうです！しかし神様がいつもともにいてくださることを覚えつつ、与えられている交わりの中で支え合いながら一つひとつの奉仕を誠実に果たしたいと願っています。



いま神学院では……
ゴールはまだまだ先ですが
教師●矢木良雄



6年前に、ウェストミンスター寺院の礼拝に出席する機会があり、英国教会の伝統の重みを体験しました。パイプオルガンの音色も聖歌隊の賛美もすばらしかったです。強く印象に残ったのは聖書朗読でした。聖書日課に従って旧約聖書から、新約聖書からそれぞれ朗読されます。朗読は聖職者ではなく信徒です。旧約はヨブ記三十八章11節を年配の男性が、新約は第二コリント6章13節を若い女性の方が聖書朗読壇に立って読みました。説教のための箇所ではなく、純粹な聖書朗読です。

ご存知のようにゴシック建築の礼拝堂ですので天井は高く、朗読の音はまるで天から降ってくるような印象でした。礼拝で神の御声を聞くとはこういうことなんだと、感動の体験となりました。

元々は礼拝学のクラスだったところに神学院のカリキュラムに欠けていた教会論が加わり、ちょっとユニークな内容になっています。教会の現場についての学びです。教師にとってクラスで話したことがそのまま次の礼拝につながり、その反省を持って次の授業に立つといった、ダメ出しの反省ばかりを強いられるような課目です。教会は自分たちの好きにやっても良いところではありません。神学者のマクグラスは4つの指標を掲げています。第一は、神からの召命という共通の出発点を持つ「一つである」ことです。第二は、神の聖さを分かち持つという「聖性」です。第三は、あらゆる人間の必要と困窮、罪に応える普遍的な福音を伝える「公同性・普遍性」です。第四は、使徒たちに起源を持つという主ご自身との連続性です。これを「使徒的教会」と呼びます。私たちはこうした資質を保っているのか、ときどき自分たちの教会をチェックすることも必要です。

さて、その教会で何と言っても一番大切なのは神さまにお会いする礼拝です。「礼拝を評価するための指標」というのがあります。全部で10項目あるのですが、その中から5つをご紹介します。①礼拝をリードする者は、礼拝が何であるかを理解し、そのための準備をしているだろうか。②礼拝の中で、神が神として崇められ、その神さまが臨在してくださる礼拝になっているだろうか。③出席者は積極的に礼拝に参加できているだろうか。④出席者は自らの罪が赦された確信を持つことができたのだろうか。⑤出席者は新しい一週間のために、神さまの愛、恵み、力を実感しながら帰ることができたのだろうか。……まだまだですね。

同窓生の近況

65期生
深川教会●伊藤安司



深川教会の定住伝道師として主に任せ、平日はホッとスペース中原で主に仕えるように地域に仕え、家では妻と3人の娘と2人の里子とともに過ごしています。小学2年の娘はイエス様を主と告白し、去年の12月5日に受洗しました。

今の礼拝スタイルは対面とオンラインを併用しています。私はパワーポイントの作成と操作の奉仕をし、川嶋牧師が鉦路教会や白鳥教会で当務のときに、福音の恵みを分かち合っています。

カナンと名をつけたトレーラーハウスと芝生広場を活用し、庭で難民支援バザーやカフェを行っています。そこで兄弟姉妹が喜んで奉仕する姿を見ました。地域から教会の活動を楽しみにしていると声があります。芝生広場には葡萄棚があり、四季折々の花が咲きまします。保育園の子どもたちが楽しみにしてくれています。カナンは中高生の居場所です。オンラインにすることで昔の方やCS生徒が顔を出してくれました。変わらない福音と変わりゆく様式があります。形は変わっても主の恵みは同じ、そんな恵みに気づかされました。

神学院スタッフ…恵みの想起

神学院を見守る大木

学監 梅田 昇

私は1980年に神学院を卒業しました。教師には2005年にフィリピンから本帰国後すぐに任命されました。本館前に行きますと神学生時代の出来事が思い出されます。丸の内のビルの一室で始まった神学院は浦和に移転し、1968年に現在の藤が丘に移転しました。本館ロータリーに一本の大きな杉があります。多くの神学生の方々が卒業し、福音の第一線に巣立っていかれたのです。この間、様々な出来事があったことですが、一本の大木は変わりなく立ち続けています。院長も変わり、施設も拡張されました。一本の大木以上に、永遠の主が神学院の歩みを導き続けてくださいます。これからも永遠の主（ヘブル一三・8）を見上げつつ、奉仕させていきたいと思います。

●4月に始まった前期は、7月末に補講週とテスト週が行われ、28日の終業礼拝をもって締めくくられました。教えてくださった先生方に心から感謝します。

●7月1日（金）、JEA総主事の岩上敬人先生をお迎えし、宣教師論Iでの特別講義とチャペルでこ奉仕をしていただきました。

●7月14日（木）、東南アジアで活動してられるOMFの宣教師をお迎えし、チャペルで宣教報告とお証しを伺いました。

●6月より毎週金曜日、高津教会員の大神姉が図書館で奉仕を始めてくださっています。今学期も信徒方の尊いご奉仕をいただき感謝に堪えません。

●8月2日より8週間の夏期実習が始まります。神学生たちの奉仕のみ守りのためにお祈りください。

●8月14日（日）～15日（月）、夏のフェスタが開催されます。

学苑だより



サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。6月の会計報告をさせていただきます。

6月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥1,500,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥639,360
教会団体による「神学院献金」
¥400,910
合計 ¥1,040,270
その他の献金（一時・特別）
¥609,960

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「まことに主は 渴いたたましいを満ち足らせ 飢えたたましいを良いもので満たされた。」
(詩一〇七・9)

本格的な夏を迎えています。先月は各地で豪雨もありました。またコロナ感染の第7波が押し寄せています。そのような中で、各教会が守られ、今月開催される各地の聖会やキャンプ、オンラインの各集会も豊かな恵みがあるようお祈りいたします。

■本部

7月25日付をもって以下の任命を行いました。

■ 薦田崇志牧師
山田謙嗣牧師

を宇都宮教会の協力牧師に任命する(兼任)

2022年7月25日
教団代表 岩上祝仁

▽8月8日(月)〜12日(金)の週は夏期休業期間となり、本部出版事業部の業務はお休みとなりますのでご了承ください。

■国内教会局

▽秋の全国主事会議(変更)

8月30日(火)のみ、午前10時半〜午後4時(Zoom開催)

▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までに担当ブロックアドバイザーにお申し出ください。

〈会議〉

8月26日(金) 国内教会局実務会

9月9日(金) 宣教研究委員会

*各地域の聖会情報(日付順)

◇林間聖会(YouTube配信)

8月11日(木/祝)

講師||大兼久芳規師

◇九州聖会(YouTube配信)

8月21日(日)

会場||久留米・福岡教会(配信)

講師||岩上祝仁師

◇中京聖会(オンライン開催)

9月18日(日)

講師||平瀬義樹師

◇ポプラ聖会(北海道)

9月23日(金/祝)

午前・午後 会場||札幌教会

講師||岡田順一師(ウエスレアン・ホーリネス代表)

◇北関東聖会

10月10日(月/祝)

会場||又エック(講堂)

講師||細田恒太郎師

◇関西聖会(対面・配信)

10月10日(月/祝)

会場||大阪リバーサイドホテル

講師||岩上祝仁師

◇中国聖会(YouTube配信)

10月10日(月/祝)

会場||広島教会

講師||阪下謙師

◇北越聖会(DVD聖会)

10月23日(日)

会場||各教会で開催

講師||浜田耕三師

◇東関東聖会

11月3日(木/祝) 会場||市川サンシティ(予定)

講師||田辺寿雄師

◇静岡聖会(リモート併用)

11月3日(木/祝)

会場||浜松教会

講師||岩上祝仁師

◇沖繩聖会

11月3日(木/祝)

会場||那覇教会

講師||薦田聡毅師

■世界宣教局

▽7月14日(木) 拡大運営委員会を開き、特に宣教コイン献金のことなどについて意見交換の時を持ちました。

▽薦田就子宣教師は、8月より国内での巡回を開始します。礼拝や祈禱会などにお招きし、宣教報告を聞く機会をぜひお持ちください。オンラインでの巡回も可能です。お申込みは薦田敬子師まで。

《IWF関係》

▽ホワイト宣教師ご夫妻は、支援教会訪問などのために3か月間カナダへ帰国されます。旅路と健康が守られ、奉仕が祝されますようにお祈りください。

■教育部・信徒教育課

▽信徒伝道者スクーリング

日時||9月2日(金)(Zoomオンライン開催)

講師||佐藤信行師

内容||I 旧約聖書の学び方①(基礎||歴史)、II 旧約聖書の学び方②(発展||詩歌・預言)

▽信徒教育課会合

日時||9月16日(金) 午前10時〜(オンライン開催)

▽信徒向け聖書講座(無料、各教会で自由に利用可)

内容||「使徒の働き」の学び(第19回目まで公開中)

講師||岩上敬人師(JEA総主事)

▽過去の信徒聖書講座

内容||「救いの確立」熊谷邦男師(聖書講座は教育局HPから常時視聴可)

▽教育部・生涯学習課

▽きよめをテーマとした有志の牧師研修会(全牧師対象)

日時||10月20日(木) 午後1時半〜4時(Zoom)

テーマ||「きよめ理解の歴史的な流れ」

発題者||國重潔志師

▽青少年部・青年課

▽ビルド(月に一回、オンライン開催、QRコード)

*偶数月はテーマをもとに語り合うトークビルド、奇数月は「聖書を読む」ビルドがオンラインで開催されています。(お問い合わせは担当の久留米教会・吉村師まで)



▽九州青年大会

日時||9月18日(日) 午後3時〜5時(オンライン開催)

講師||國重由紀子師

▽青少年部・中高生課

▽第15回とにキャン2022

日時||8月9日(火)〜10日(水)

講師||鈴木雅也師(Ani.a)

テーマ||「LINE」つながろう、のりこえよう、

▽夏期実習任地(8月1日(月)〜9月25日(日)の8週間。カッコ内は前期/後期の任地。順不同。敬称略)

林眞光(蒲田シオン教会)

森徳子(上田教会/日本イエス小松島栄光教会)

▽BTC夏のフェスタ2022(教育局青少年部と共催) 8月14日(日) 夕〜15日(月) 昼。詳細は5ページをご参照ください。

▽秋の入学審査は9月5日(月)。出願締切は8月22日(月)です。必要な方は資料を請求し、願書を提出してください。

▽今月の神学院祈り会(オンライン)は、8日(月)に行います。

▽教会福音讚美歌音源USBは製作の遅れのため、今月中に発送いたします。なお、第二次締め切りは今月末まで延長となりました。

▽夏期特価販売を実施しています。各教会にお送りさせていただいた案内をご参照、ご利用ください。

▽出版事業部全体部会を9月2日(金)に行います。

教報PDFパスワード||7219

新生宣教団 定価 一部110円(税込) 郵便振替 001107133609

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣 印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル イムマヌエル綜合伝道団本部